

郷土館発

記憶と記録

前号で郷土館にある映像資料の「他校見学」と題されたスライドを紹介しました。昭和二十年代の作品だと思われま



田口小学校 名倉村教育委員会
「他校見学」より

戦後間もない頃の時代、スライドフィルムやカメラはとても高価なものだったでしょう。それを現像するのにも手間と費用がかかったと予想されます。加えて、交通事情のよくなかった時代に、名倉から稲武・津具・田口・清崎のそれぞれの学校に向き、時間をかけて撮影しています。制作の目的とそれに向けての当時の人達の強い気持ちを感じる事ができます。

スライド撮影一つにしても、今と違って、大変な手間と計算が必要だったはず。その日の天候や撮影場所・被写体に合せて、シャッタースピードや絞

りをどうするか判断しなければなりません。また、その写真も撮影する機会は、そんなに多くない、という状況もあったと思われま

一枚の写真を撮影するためには、知識と経験・記録を重ね合わせ、ある種の「思いつき」を持ってシャッターを押したのではないかと推測されます。加えて、自分で現像をするとなれば、高度な技術・経験・設備と共に緊張を必要とする作業が待っています。

このような「他校見学」を撮影した頃と比べて、現代の私達の写真撮影は、どうでしょうか。「デジカメ」なるものが出現してから、写真撮影はとても手軽・気軽・安価・大量……となりました。フィルムはいらない、撮影はオート、多少の補正はその場でカメラのコンピュータがしてくれる、撮った写真はその場で確認できる……、挙げていけばきりがありません。おまけに最近では、スマホで簡単にきれいな写真が撮影でき、人に見てもらったり送ったりすることや、写真の修正も指先一つでできるようになってきています。



上：デジカメ
下：昭和25年ごろ田口小学校で使われていたカメラ

時代の進歩が、写真一枚撮るにしても大きな変化、便利さをもたらしています。ただそこには、便利さゆえに失ったものがあるように思っています。その一つが、写真に込められた思いの大きさです。以前は、物事を記憶だけでなくより確かなものと記録し、振り返ったり他の人に伝えたりするために、きちんと写真撮影をし、出来上がったものをアルバムに整理していくということをしました。それが、カメラやフィルムの性能の向上と低価格化、その後デジカメが出現し、私の場合、「とりあえず撮っておこう」に変わっていききました。それが結局、撮影した写真がメディアの中に何百枚と保存され、なかなか整理できません。データとしてはありますが、「残す・振返る」ための記録にはなっていない。

郷土館では、移転に向けての資料整理をしています。その資料の中には数多くの写真が残されており、その写真の中から当時の人々の暮らしを見いだすことができます。その写真は、記録としての価値を持ち、時には記憶を呼び醒ますきっかけとなることもあります。このことを現代の写真撮影に当てはめていくと、「記憶と記録」はどうあればいいのか改めて考えさせられます。